



とび・土工、大工、鉄筋の3工種全般を1年間みっちり研修する。写真は鉄筋の実習教育



指導員から鉄筋加工機の使い方の説明を受ける訓練生

# 国内唯一の多能工教育訓練機関として 即戦力を育成する

イメージUP 入職促進 定着促進 人材育成

## POINT

- ▶ 多能工を育成する国内唯一の教育訓練施設、(株)マルチビルダー高等職業訓練校を運営する。新入社員を対象に、とび・土工、大工、鉄筋の3工種全般を教育し、多能工としての技能を習得させる。
- ▶ 1年間の訓練によって、技能、安全、品質などに対応できる人材を育成。ゼネコンが必要とする人材を育成する。
- ▶ 固定月給制の賃金カーブを維持することで定着率の向上を図っている。

## 背景と動機

(株)マルチビルダー高等職業訓練校は、東京都台東区のとび・土工を専門とする山岡建設工業(株)が昭和54年に開設した企業内訓練校を前身とする。近年増加する高層マンションの建設では多能工の能力が必要となる。元請である(株)大林組をはじめ多能工のニーズが高まっていることを受け、業務を引き継いだ。

## 概要と成果

同社に入職した新入社員を対象に(株)マルチビルダー高等職業訓練校において、とび・土工、大工、鉄筋の実技訓練を行う。訓練は1年間で1,880時間あり、技能の習得ばかりでなく安全やコスト面なども含め広い視野から現場を見ることを学ぶ。入社したばかりで適正が判らない社員が早期に駆体系技能を一通り研修できるのが大きな特徴となっている。

### 処遇の充実

入職促進 定着促進

社員として採用され、全寮制のもとに訓練を実施。固定月給制、完全週休2日制、社保完備、賞与、有給制度等も整備されている。休日手当や週40時間労働は(株)大林組の制度に合わせて整備・実施された。

### 成果

- ・北海道から沖縄までの工業高校新卒者を中心に、例年5名~6名の採用を維持。定着率は約4割と年々増加している。
- ・1年間の教育訓練があることを動機として入職してくる者も見られ、生徒を送り出す高校や両親に対する信頼感を高めている。

### 厳しい長期訓練

人材育成 定着促進

1年間に3工種全てを教育することを特徴とする。即戦力の育成を目指し、技能ばかりでなく作業の流れも身に付けさせる。訓練後も、リーダー教育(3~4年目)、職長教育(10年程度)など、職長に至るまでの段階的な教育を継続実施。

### 成果

- ・技能はもちろん安全管理なども身に付けていると、元請からの評価は高い。
- ・修了者には(株)大林組に出向して作業を行う者も多い。なかには、出向中に評価され転籍した人材も生まれるほど、技能向上に訓練校が寄与する部分は大きい。

【苦勞・工夫した点】1年間で1,880時間という極めて充実した訓練を、これまでは校長一人で担ってきた。しかし、年齢を考慮し専任講師1名を補充した。多能工が注目されてくると、指導体制をさらに充実させる必要がある。

## PROFILE

### 株式会社マルチビルダー

(株)マルチビルダー高等職業訓練校

所在地 埼玉県八潮市浮塚 354-1

TEL: 048-995-8059

資本金 1,000万円

従業員数 70人

URL <http://multi-builder.co.jp/>



## 職業訓練の実施体制

訓練の最終目標は技能検定の合格。施工実施計画書を独自に作成させて、数量、材料、拾い出しまで行なわせるなど、現場で必要とされることを一通り教えている。

【場所】実施機関である(株)マルチビルダー高等職業訓練校は、大林組林友会教育訓練校と同じ建物内に立地。訓練も同じヤードや教室を使用できるため通常よりも実践的な指導を行うことが可能である。

【指導員】多能工である専任講師2名が座学・実技までを担当する。1名は現校長であり、多能工歴35年超のベテラン。もう1名は、訓練校のOB。

【教材】テキストは現校長による長年の経験が凝縮された手作りのオリジナル。各作業工程のポイントを解説、ページが進む毎に完成に近づくように構成される。鉄筋構造がわかるようなミニチュア模型なども使用。

【スケジュール】技能検定受検を目標に、最初の3ヶ月間で第一モデル、7~8月に縮尺モデル、9~12月に実物大モデルの組立訓練を行う。訓練時間は8時から5時。補修授業も随時実施される。

## 《参考1》平成26年度のスケジュール

### ■平成26年度のスケジュール



指示通りに設備基礎型枠の建込を練習

日程	スケジュール
4月1日	入社式
4月3日 (2泊3日)	入校式 古川駐屯地(茨城県)での体験入隊
4月初旬	座学開始
6月11日	実技訓練開始 (擁壁工事開始)
7月5日	実技計画 (縮尺モデル工事開始)
7月30日	実技訓練 (縮尺モデル工事開始)
9月12日	実技計画 (第3モデル工事開始)
10月11日	実技訓練 (第3モデル工事開始)
12月24日	応用実技訓練開始
2月6日	技能照査
3月31日	修了式

## 《参考2》事業で活用できる助成金(平成27年度予定)

### 給与の6割程度を助成金で賄う

新入社員の教育訓練費は、総額3,000万円程度である。そのうち、訓練生に支給する給与の6割程度はキャリア形成助成金、建設労働者確保育成助成金によって賄っている。

指導員の経費、資材関係費等は、助成対象外であるため、会社が負担。

事業所の建物は、(株)大林組所有のものであるので、賃借契約を結び借用している。

#### ▶(株)マルチビルダー高等職業訓練校に支給される助成金の例

○認定職業訓練助成事業費補助金(運営費) / 東京都

受給額 1,238,000円 + 68,000円 × 訓練生数

○建設労働者確保育成助成金(経費助成) / 厚生労働省

受給額 認定訓練助成事業費補助金の交付を受けて都道府県が行う助成により助成対象経費とされた額の6分の1に相当する額

#### ▶(株)マルチビルダーに支給される助成金の例

○キャリア形成促進助成金(賃金助成) / 厚生労働省

受給額 政策課題対応型訓練(OFF-JT)賃金助成  
一人当たり 800円 × 訓練時間

○建設労働者確保育成助成金(賃金助成) / 厚生労働省

受給額 一人当たり 5,000円 × 訓練日数

### 現状の課題(現在、取組を実施する上で苦労している課題)

固定月給制を維持していくためには、社員を遊ばせておくことはできない。それぞれが営業しなければならないことを言い聞かせ、職長には予算を厳しく管理するように指導している。また、若手の教育に対して昔の感覚で厳しく指導すると直ぐ辞めてしまう。時代が変わったことを踏まえ、会社としても対応を見直す必要がある。福利厚生改善など、あの手この手を考え、試行錯誤している。